

# 「マイコプラズマ肺炎」来襲でも落ち着いて。小児科専門家の助言<sup>1</sup>

北京市衛生健康委員会 2023.11.14

最近、マイコプラズマ肺炎が注目され、国内の多くの地域で肺炎マイコプラズマ感染症例が報告されており、感染した層は青少年が中心です。

そこで、マイコプラズマ肺炎とは何か？2023年の感染症状はなぜ重いのか？主な症状は何か？どのように予防し、薬を使えばいいのか？北京友誼医院の魏田力副主任医師のお話を聞きましょう。

## マイコプラズマ肺炎とは何ですか？

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマの感染により、気道感染が肺の炎症を引き起こす反応です。肺炎マイコプラズマはウイルスと細菌の間にある一種の病原体で、5～15歳の小児および青年に好発しますが、現在乳幼児など低年齢児童の発病率も高くなっています。

肺炎マイコプラズマは主に呼吸器の飛沫を介して伝播し、せき、くしゃみで出る飛沫や、鼻汁分泌物に含まれます。肺炎マイコプラズマ感染患者、無症状感染が主要な感染源です。ただ、マイコプラズマ肺炎は法定感染症ではなく、感染力は法定感染症ほど強くありません。

## 2023年の感染症状はなぜ重いのですか？

マイコプラズマ肺炎は小児の呼吸器疾患の中では比較的多く、一般的には秋と冬に多く発生します。3～5年周期で小さなピークがあり、2023年は感染の"大の年"にあたっています。マイコプラズマの病原には遺伝子変異があると考えられ、アジスロマイシンに対して一定の薬物耐性があり、相対的に症状が重くなっています。2022年のマイコプラズマ感染の症状は咳嗽のみが多かったのですが、2023年の株は肺の感染を速く引き起こしやすくなっています。

臨床では、発熱が1週間以上になることが多く、お子さんの免疫力が弱い場合は、混合感染を起こす

---

<sup>1</sup> 『“支原体肺炎”来襲不要慌 儿科专家为您支招』北京市人民政府HP 2023.11.14

[https://www.beijing.gov.cn/fuwu/bmfw/sy/jrts/202311/t20231114\\_3300887.html](https://www.beijing.gov.cn/fuwu/bmfw/sy/jrts/202311/t20231114_3300887.html)

(『中国で小児を中心に増加が報じられている呼吸器感染症について』2023年11月24日時点

国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター 実地疫学研究センター

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-lab/2521-cepr/12382-china-respiratory.html>

記載の中国語参考文献xi)

ことがあります。他の細菌やウイルスを同時に感染して、肺外の症状が現れます。重篤な場合には中枢神経脳炎の症状が現れ、病気の経過が長くなり、症状が重くなります。

### **肺炎マイコプラズマに感染した場合、主な症状は何ですか？**

肺炎マイコプラズマに感染すると、ほとんどの人は上気道感染の症状、すなわち発熱、せき、喉の痛み、鼻づまり、鼻水が現れます。少数の人は肺炎、つまり下気道感染へと進行し、高熱を繰り返し、激しいせきがみられます。後期になると、胸痛をともなう咳、筋肉痛、倦怠感、頭痛などの症状が現れ、症状は2～3週間続きます。

### **感染症状が出たらすぐに受診する必要がありますか？**

肺炎マイコプラズマ感染症は自然に軽快することがあります。早期にアジスロマイシンを経口投与し、必要に応じて鎮咳薬を経口投与します。発熱がみられる場合は病状に応じて解熱薬を投与し、自宅で安静にして経過を観察します。高熱が続く、咳嗽がひどくなる、精神状態の悪化、噴水様嘔吐、発疹等の病状変化がみられる場合は速やかに医師の診察を受け、病状が重い場合は積極的に入院することが望ましいです。

### **感染の各段階でどのように薬を使いますか？**

マイコプラズマ肺炎に対する第1選択はマクロライド系抗菌薬で、アジスロマイシン、エリスロマイシン、クラリスロマイシン等があります。小児のせきは症状に応じて鎮咳去痰薬の服用、または吸入を行いません。発熱に対しては、体温が38.5℃以上の場合はイブプロフェン含有解熱剤やタイレノールなどの解熱薬を服用できます。大多数の小児は10日程度で基本的に回復します。

### **マイコプラズマ肺炎はなぜ治りにくいのですか？**

2023年の肺炎マイコプラズマは、肺の炎症反応が強いため相対的に重い傾向があります。肺の炎症面積が大きく、吸収が比較的遅くなっています。

### **マイコプラズマ肺炎はどうやって予防するのですか？**

現在マイコプラズマ肺炎に対する予防ワクチンはなく、免疫力向上が基本です。日常的に良好な衛生習慣を身につけ、免疫力を高めることで、病原体感染を予防しましょう。

1. 人の密集する公共の場所ではできるだけ避け、外出時はマスクを正しく着用しましょう。
2. 室内の換気に注意し、新鮮な空気を保持しましょう。
3. 手指衛生に注意し、石鹸やハンドソープを使って流水で手洗いをしましょう。流水がない場合はアルコール手指消毒剤等で両手を消毒しましょう。
4. 各種ビタミンを補充し、野菜や果物を多くとり、適度な運動で免疫力を高めましょう。
5. 日常的な掃除や消毒を行ない、健康モニタリングを強化しましょう。

(日本語訳 吉川淳子)